

令和5年
3月号

あじさい園 ショートステイ
ゆめあじさい

社会福祉法人晃宝会
特別養護老人ホームあじさい園
<http://www.aiisaien.or.jp/>



群馬医療福祉大学

山口智晴教授の講座原文の一部より

『福祉の分野でいう「自立」とは、その人が自分の能力を活かして主体的に社会の中で生活を営むことであり、動作が自分一人で行えるという意味ではありません。認知症があれば、今までと比べて生活でのつまずきも増して不便なことは増えるでしょうが、それが不幸とは限りません。認知症になったのはその人の連続している人生の一部のイベントなので、認知症になってもその人が主体的に社会に参加できる環境があることが重要です。認知症という言葉をもっとポジティブにとらえる社会になるとよいと思っています。昔はがんが見つかっても、本人には伝えず、家族に告知され、最期に本人がうすうす気付くという時代もありました。しかし、今ではがんサバイバーという言葉もあります。認知症を排除するのではなく、ともに生きる社会になれば救われる人もたくさんいると思います。認知症は「聡」「隠すもの」という偏見が残っているからといって本人にも、隠そうと取り繕う心理が働きます。歳をとれば誰でもがなる可能性を秘めているからこそ、認知症を診断されたらお互いさま。「認知症って診断されたから、忘れるよ!」と周囲に宣言できるくらい安心して、忘れられる社会になれば、取り繕い反応も少なくなるかもしれません。きっとがんに対する社会の考え方が変わってきたように、認知症に対する社会の考え方も、前向きに変わってくることを期待しています。そうすれば、認知症とともに、もっと幸せに生活できる社会になるのだと思います。』

認知症になっても幸せに生活できる地域づくりを、地域の皆様と一緒に考えていくことも、社会福祉法人の大事な責務です。あじさい園、あじさい園宝、オレンシカカフェ水門のお便りやホームページを通して、認知症や認知症ケアについて情報公開し、理解を深める活動を継続してまいります。

また、令和5年4月3日、南肘塚町の特別養護老人ホームあじさい園宝の敷地内に、グループホームあじさい園宝（認知症対応型共同生活介護）を開設します。理念を胸に努めてまいります。

今後ともご指導ご支援をよろしくおねがいいたします。

1月30日にもう一度
食べたいとの声があっ
た「パンケーキ」を作
りました。



2月9日、食事会で豚バラもやしの中華鍋を行いました。前回の鍋が好評でしたので、今回は少し変わった鍋を作りました。

